

第 37 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 22 年 6 月 4 日 (金) 15:00~17:10
- II 会 場 筑波大学大学院 (東京キャンパス) 仮校舎: 住友神保町ビル
「513K 講義室」(東京都千代田区神田神保町 3-25)
- III 出席者〔学外委員〕
石田瑞穂、大崎 仁、大竹美喜、金澤一郎、古賀正一、柴崎信三、末松安晴、西野虎之介
〔学内委員〕
山田信博、清水一彦、赤平昌文、塩尻和子、田中敏、鈴木久敏、五十嵐徹也、宇川彰、
西川潔
〔オブザーバー〕
永田恭介

IV 議 題

〔学長所信表明〕 ----- 〔席上配付資料〕

〔審 議〕

- (1) 平成 21 事業年度財務諸表等について ----- 〔資料 1〕
- (2) 国立大学法人筑波大学基金規則の制定及び国立大学法人筑波大学の
組織及び運営の基本に関する規則等の一部改正について ----- 〔資料 2〕
- (3) 研究科の専攻設置について
〔生命環境科学研究科生物科学専攻 (博士後期課程)〕 ----- 〔資料 3〕
- (4) 平成 23 年度概算要求について ----- 〔資料 4〕

〔報 告〕

- (5) 平成 21 年度卒業生・修了者の進路状況について ----- 〔資料 5〕
- (6) 第 1 回日本・北アフリカ学長会議について ----- 〔資料 6〕
- (7) 日独学長会議について ----- 〔資料 7〕
- (8) 筑波大学ボン事務所開所記念レセプション及びワークショップについて ----- 〔資料 8〕
- (9) QS アジア大学ランキング 2010 について ----- 〔資料 9〕
- (10) 国立大学法人化後の現状と課題について (中間まとめ(案)) ----- 〔資料 10〕
- (11) 第 74・75 回教育研究評議会報告 ----- 〔資料 11〕

V 議 事

〔学長所信表明〕

審議事項に先立ち、学長から平成 22 年度の所信表明について、席上配付資料に基づき説明があった。

〔審 議〕

1 平成 21 事業年度財務諸表等について

田中理事から、資料 1 に基づき、平成 21 事業年度財務諸表等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- 各セグメントの経常収益などはどうなっているのか。研究活動のパロメータではないのか。
- △ 資料 1-3 の「附属明細書」の「開示すべきセグメント情報」にあり、これは各セグメントごとの費用と収益などのバランスを比較するためのものである。
- 財務分析の外部資金比率で何を示そうとしているのか。
- △ 文部科学省が外部資金の定義を定め、86 国立大学法人が一律で同じものを作成している。
- 文部科学省が示しているなら仕方がないが、自己収入の中から、外部資金という用語で、どういう意図で、何を切りだしているのかが見えにくいのではないか。

- 財務諸表としての観点では整理されていていいとは思いますが、山田学長の所信表明の中には、世界的教育研究の拠点を目指すとの。世界から見たときの筑波大学、世界基準の大学とどう比較ができるか、そういう資料の作成も考えてほしい。
- △ 今後、できるだけ理解が得やすい数字を出して作成するよう努力したい。

2 国立大学法人筑波大学基金規則の制定及び国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則等の一部改正について

田中理事から、資料2に基づき、国立大学法人筑波大学基金規則の制定及び国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則等の一部改正について説明があり、審議の結果、一部修正の上、承認された。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- 基金事業室スタッフの人員は、どれくらいの規模を予定しているのか。
- △ 常勤、非常勤合わせて現在4名であり、今後増強していきたいが、財務担当理事をはじめ、職員全体で対応したい。
- ハード物の基金の受け皿はあるのか。
- △ 基金の中に特定基金というものを設置することが可能になっており、ハード物に対応することができる。
- 基金は寄附金で設定するというのわかるように規定したらいいのではないか。
- △ 第1条にその旨、明記させていただく。

3 研究科の専攻設置について[生命環境科学研究科生物科学専攻(博士後期課程)]

清水理事から、資料3に基づき、研究科の専攻設置について[生命環境科学研究科生物科学専攻(博士後期課程)]の説明があり、審議の結果、一部修正の上、承認された。

4 平成23年度概算要求について

田中理事から、資料4に基づき、平成23年度概算要求について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

- プロジェクトとして、ある程度成果を出して期限がきて終了するものなど、今後どうなっていくのか。基盤的な費用でやっていけないものか。
- △ プログラムとしての整備計画は終わったものの、これからそれを運用していく経費については大学の中で、初期の目的を達成できるよう措置したい。是非、総合科学技術会議においてこういうものが、どんどん失われていっているということを、研究環境整備という中でご議論いただきたい。
- そういう問題点があることを、国大協などを通じて発信していくことも考えるべきではないか。
- △ 国大協など、いろいろな組織と協力しながら進めていく予定である。

[報告]

5 平成21年度卒業生・修了者の進路状況について

西川副学長から、資料5に基づき、平成21年度卒業生・修了者の進路状況について報告があった。

- 6 第1回日本・北アフリカ学長会議について
塩尻理事から、資料6に基づき、第1回日本・北アフリカ学長会議について報告があった。
- 7 日独学長会議について
塩尻理事から、資料7に基づき、日独学長会議について報告があった。
- 8 筑波大学ボン事務所開所記念レセプション及びワークショップについて
塩尻理事から、資料8に基づき、筑波大学ボン事務所開所記念レセプション及びワークショップについて報告があった。
- 9 QSアジア大学ランキング2010について
塩尻理事から、資料9に基づき、QSアジア大学ランキング2010について報告があった。
- 10 国立大学法人化後の現状と課題について（中間まとめ(案)）
学長から、資料10に基づき、国立大学法人化後の現状と課題について（中間まとめ(案)）の報告があった。
- 11 第74・75回教育研究評議会報告
学長から、資料11に基づき、前回の本会議以降に開催された、第74回及び75回の教育研究評議会の議事の概要について報告があった。

以 上